

令和6年度 放課後等デイサービス自己評価結果を公表します。

旭川荘真庭地域センターさくら

職員による自己評価

□環境面

評価が高かった。

□業務改善

支援に対してその都度振り返りはあるが、全員参加での振り返りの時間は設けることができていない。研修について、人員の関係や勤務時間上から参加しにくいと思っていることが分かった。

□適切な支援の提供

今年度よりアセスメント様式を独自の物から改善している。支援スタッフに加え、リハスタッフの意見を取り入れるようにしている。また、個別活動を設定し、1人1人に合わせた支援や活動プログラムの時間を確保している。役割分担など、その日の支援についての打ち合わせがスタッフ全員でできていない。

□関係機関や保護者との連携

学校訪問や事業所の見学など、他事業所との連携は行えている。また、自立支援協議会子ども子育て部会へ参加している。しかし、障害のない子どもと活動する機会はつくることができていない。

□保護者への説明責任

概ね高評価であるが、保護者、家族への適切な支援ができているかについて、どちらでもないと感じているスタッフがいた。今年度は交流会を開催し、普段行っている活動プログラム（今年度はポッチャ）の様子を見てもらったり、会食を行ったりすることができた。

□非常時の対応

内部研修での虐待防止やBCP(業務継続計画)研修により意識を高めることができた。

保護者による評価

□環境面

評価が高かった。

□適切な支援の提供

概ね高評価であったが、障害のない子どもとの活動機会がないと感じられている。

□保護者への説明等

高評価であった。

□非常時の対応

緊急時マニュアル等の説明や避難訓練がされているかどうかについてどちらでもないと回答されていた。

事業所内での分析

【共通点】

- 環境面、関係機関や保護者との連携や説明については高評価であった。
- 地域との関わり、障害のない子どもたちとの交流がないと感じている。

【相違点】

- 非常時の対応について、マニュアルや内容が保護者に伝わっていない。
- 保護者からは適切な支援の提供はされていると評価されているが、職員間では支援の内容や役割分担が不十分と感じている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・ 環境、設備面で充実している。
(バリアフリー)
- ・ 入浴サービスがある。
- ・ 専門スタッフが勤務 (PT、OT、看護師等)
- ・ 医療ケアの必要な児を受け入れることができる。
- ・ 自立支援協議会の協議に定期的に参加している。
- ・ ICT の活用がすすんでいる。

事業所の改善点

- ・ 支援に対する打ち合わせや振り返りの時間の確保ができていない。
- ・ 研修については職員によって差がある。勤務の関係上や、リハビリや療育など専門的分野でのスキル向上に向けた研修を設けることができなかった。
- ・ 保護者に対して非常時のマニュアルや訓練の内容が周知されていない。

事業所の改善への取り組み

- 毎朝の受け入れ前のミーティングの実施や申し送りノートのチェックを行い、打ち合わせや振り返りが行える環境を整える。
- 本人、家族が参加できる行事や地域での催しを開催し、地域との繋がり、情報共有や交流の場を提供する。
- 非常時のマニュアルや訓練の内容が保護者に周知されるように、広報誌や SNS での情報発信を随時行っていく。
- 資質向上の為、専門分野におけるスキルアップに向けた研修が積極的に参加できるよう、オンライン研修を含め研修機会を設けていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度より、感染症防止のために中止していた家族会交流会を開催し、活動プログラム（今年度はポッチャ）を一緒に行い、会食を楽しむことができました。また、課題となっている非常時のマニュアルや訓練の様子が広報誌や SNS や交流会、茶話会などで、活動の様子や施設の取り組みなどが随時、発信できるように工夫していこうと思っております。地域での交流や健常児との関わりに関しても、公共機関や地域資源を利用しながら地域との繋がりを持つことができればと考えています。

ご家族の皆様には、平素より当センターの運営に際して、ご支援ご協力頂きありがとうございます。今後も充実したサービスをご提供できるよう見守って頂ければ幸いです。

		チェック項目	はい(人)	どちらとも いえない (人)	いいえ(人)	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	3	1		
	2	職員の配置数は適切であるか	2	2		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	4			施設全体がバリアフリーになっている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	2	2		その都度の振り返りはあるが、参加できているという実感が持てにくい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	2	2		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			4	行っていません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3	1		勤務時間上参加が難しいことがある。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2	1	1	今年度より独自の物からアセスメントの様式を改善している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	2	1	1	担当者が立案し、会議などで共有している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	2	2		固定化しないように工夫をしているが、組み立てが難しいこともある。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	1	3		平日の利用は学校の振休や長期休みのみで、特に分けて活動を設定していないが、リハビリスタッフによる活動を行うこともある。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			主にリハスタッフが行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		3	1	送迎等のため時間の都合上難しいこともある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	1	2	1	時間の都合上難しいこともあるが、各自で支援記録のチェックや会議などで振り返ることができている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4			支援記録のソフトを使用し、タブレット等ですぐに記録や見直しを行うことができている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	2	2		支援計画の5領域に基づいて支援を行っているが、職員間での統一が図れていない。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	3	1		計画作成する担当職員が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	4			下校後に利用している児がいない。学校への訪問を実施し、共有を図っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	2	2		現在、対象児はいないが、医療ケア指示書に基づく、医療ケアのマニュアルを作成している。また、必要な情報は本人の受診時に確認してもらうようにしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		1	3	就学に該当する児がいない。他事業を利用している児に関しては、支援会議での情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4			移行会議を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	1	1	2	旭川荘内の指導看護師より、指導を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		3	1	秋祭りや外出等で、社会経験ができるようにしているも、通常利用時には機会を設けることができない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	4			自立支援協議会子ども子育て部会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	3	1		連絡帳や送迎時等に日中の様子などを伝え、共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	1	2	対象児がいない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	1		家族会の設置。また、茶話会や交流会を開催している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4			
	35	個人情報に十分注意しているか	4			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4			年1回、地域の人を招いてのイベントを開催している。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	4			個別に緊急時マニュアル作成、家族に同意を得ている。マニュアルの存在は家族に知らせている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	2	2		センター全体での避難訓練に加え、放デイ利用者の在籍時の長期休暇時や土曜日に避難訓練の実施を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4			虐待防止、人権についての研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	4			対象児なし
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3		1	現在、対象児がいないが給食委員会で2年に1度アレルギー表の記入をご家族に依頼している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4			ヒヤリハットの記入、また月1回委員会を開き、振り返りや対策検討を行っている。

		チェック項目	はい(人)	どちらとも いえない (人)	いいえ(人)	ご意見
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	2			
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	2			
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	2			
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、支援計画が作成されているか	2			
	5	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	2			
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	1		
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	2			
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	2			
	9	保護者に対して面談や、家庭での過ごし方に関する相談等の支援が行われているか	2			
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2			
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	2			
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	2			
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	2			
非常時 等の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	2			
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	1	1		
満足 度	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	1	1		
	17	子どもは通所を楽しみにしているか	2			
	18	事業所の支援に満足しているか	2			

令和6年度保育所等訪問支援事業の自己評価結果を公表します！

旭川荘真庭地域センターさくら

職員による自己評価

□環境面

理学療法士や作業療法士など専門的な支援が設定され評価が高かった。

□業務改善

第三者機関による外部評価が行えていない。研修機会の設定が十分に整えることができていない。

□適切な支援の環境

支援前の打ち合わせや振りかえりについては意見が分かれた。

□関係機関や保護者との連携

家族とのやりとりについては高評価であったが、訪問先との連携において改善が必要。

□保護者への説明等

概ね高評価であったが、家族間交流の場面設定や、活動や連絡体制等についての情報発信が不十分であった。

□訪問先施設への説明等

概ね高評価であった。訪問先施設からの相談件数が少なかった。

□非常時等の対応

概ね高評価であった。施設内でのヒヤリハット報告の検討を事業ごとに当てはめ感度を高める。身体拘束適正化について正しく認識し、研修を継続する。

保護者による評価

□環境面

概ね高評価であった。

□適切な支援の提供

支援計画や相談について高評価であった。

□保護者への説明等

相談や支援内容の説明や共通理解については高評価であった。

家族が参加できる研修会や情報提供の機会の設定が不十分であった、できていなかった。

□非常対応

支援機関全体で、各々の対応について情報共有ができていない。

□満足度

高評価であり満足度は高かった。

訪問先施設による評価

- ・ 相談する回数が少なかった。
- ・ 学校の環境下での具体的な支援に対する検討について連携を図りながら行いたい。

事業所内での分析

【共通点】

- 研修や交流の機会を設けることが不十分であった。
- 訪問先や家族からの相談件数が少なかった。
- 環境や体制や家庭との連携、適切な支援の提供については高い評価が得られている。

【相違点】

- 保護者支援の点で職員間が高評価であるのに対し、訪問先の方からは訪問回数が少なかったことまた支援を一緒に考えてほしいとのセンターに対する評価が異なっていた。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・理学療法士や作業療法士などの専門スタッフによる支援が充実している
- ・自立支援協議会に参加することで、世代間ニーズや地域ニーズの把握ができる
ニーズに対しての課題検討を多くの支援機関が共有し改善に向けて検討することができる

事業所の改善点

- ・相談件数の向上
- ・研修機会の設定
- ・家族間交流や情報提供・情報共有ができる機会の設定
- ・自施設の取り組みや情報提供の伝達方法の改善

事業所の改善への取り組み

- 家族や訪問先など支援機関との連携を図り良好な関係性を構築し、相談件数の向上に努める。
- オンライン研修を含め資質向上に向けた機会を計画的に設け実施する。
- 家族間の交流機会や情報共有できる場面を設定する。
- 自施設の取り組みや活動内容などの情報発信について、各々のご家族の意思を尊重した形での提供に努める。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

ご家族の評価・訪問先の評価・従業者の評価を知ること、課題の分析・検討・具体的改善策につなげられる大きな習得となりました。引き続き、専門スタッフによる支援提供や助言について資質向上に励み、ご家族や訪問先、地域ニーズに応じた支援が提供できるよう研鑽を深めて参ります。

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 旭川荘 旭川荘真庭地域センターさくら		
○保護者評価実施期間	R7年3月12日		～ R7年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	R7年3月12日		～ R7年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	R7年3月13日		～ R7年3月21日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士や作業療法士などの専門的スタッフによる助言や支援方法を行い、環境や体制が充実している。	・専門職スタッフと情報共有を行い変化する課題に対応している。	訪問先の人員配置や環境を熟知することで、限られた環境の中で支援を充実させるための工夫を随時行う。
2	自立支援協議会に参加することで、世代間ニーズや地域ニーズに触れることができる。	それぞれのニーズに応じて、自施設ではどのように取り組むことができるのか、新たに発生する課題に対して支援スタッフ間で共通理解・認識を図っている。	地域内の事業所や行政との連携の中で、改善できる方法を検討し、課題解決にむけて一丸となって取り組む。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族や訪問先からの相談件数が少ない。	相談しやすい関係性が希薄である。自施設の事業目的や支援内容に関する情報が、訪問先に的確に伝達できているか。	訪問先や家族の状況や環境に応じた支援内容が提示できるよう、相互関係を密にし良好な関係性を構築する。また、訪問回数を増やし場面ごとに応じた支援が提供できるよう努める。
2	法人内研修やオンライン研修を含め、積極的にリハビリや療育について専門的な分野での資質向上に向けた動きが取れていない。	自施設の立地条件から、実地の研修に参加することは難しいことが多い。	オンライン研修を主に積極的に研修を受ける機会を設ける。実地研修は年間を通じて予め計画し確実に受講できる体制を整える。
3	自施設での取り組みや情報提供、支援の振り返りなどが、必要に応じて伝達できていない。	情報伝達の方法についての検討、ケースごとの対応方法などの詳細が決定していない。	書面をベースにしたうえで、情報提供の内容別に分かりやすい形での情報提供に努める。

公表 保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 社会福祉法人 旭川 旭川荘真庭地域センター さくら

公表日 R7 年 3 月 27 日

利用児童数 R7 年 3 月 18 日

回収数 2

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 訪問支援に使用する教員教材が整えられていますか。	1			1	子どもに合わせた教材を作成して下さった	身体の成長に合わせて助言に努めた。
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	2					プライバシーの尊厳は重視している。
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	2					事業の目的を理解したうえで利用していただく。
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	2				日時については学校と直接連絡を取り合ってください	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	2					
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					こまめなアセスメントやご家族との日頃からの情報共有を行うことで、変化や特性に応じた対応に努めている。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					こまめなアセスメントやご家族との日頃からの情報共有を行うことで、変化や特性に応じた対応に努めている。
	8 保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	2				担任の先生もケースカンファレンスに参加していたので盛り込まれている	ニーズ把握を行い、ニーズに沿った支援計画の作成に努めている。
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					情報共有を密にすることで具体的な支援内容の検討に努める。
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					個別支援計画に沿って支援を行っている。
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	2					訪問先の環境や状況を把握したうえでの支援に努める。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					説明している。
	13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					説明している。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	1			1		研修会の案内が少なかったが社会福祉協議会が主催の災害時の研修は案内をさせていただいたが日程の都合が合わなかった。
	15 必要ときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	2					ご家族との情報共有に努めている。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					変化する課題や新たに発生した課題など、ご家族と一緒に検討を行っている。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2				電話で相談によく乗って頂いた	
	19 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					電話連絡や文書、相談支援を通じて意思の疎通や情報伝達を行っている。
	20 事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	2					電話連絡や文書、相談支援を通じて意思の疎通や情報伝達を行い、ニーズに応じた支援を検討している。
	21 保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	2					電話連絡や文書、相談支援を通じて意思の疎通や情報伝達を行い、ニーズに応じた支援を検討している。
22 保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	2				連絡帳に訪問支援の内容や子どもの様子を詳しく記入して下さっていた		
非 常 時 等 の 対 応	23 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	1			1		通信や情報発信することはご家族のご意向に沿って行っていない
	24 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					個人情報の取扱いについての同意書の取り交わしを行い、十分留意している。加えてケース毎に確認を行っている。
	25 事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	1			1		緊急時に起きた情報を訪問先施設からいただく連携は出来ていなかったが、相談支援員からの情報からはいただいている。今後は訪問先施設とも連携を回す。
満 足 度	26 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					施設内での安全管理研修をふまえ、場面ごとの安全管理に配慮している。
	27 こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	2				久しぶりに訪問支援の先生に会えるのをいつも楽しみにしていました。	
	28 事業所の支援に満足していますか。	2				いつも相談に乗ってくださったり中学校入学前に一緒に学校の見学にいらしてくださいって心強かったです。	

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

公表日

R7 年 3月 27日

社会福祉法人 旭川荘 旭川荘真庭地域センター さくら

利用児童数

R7 年 3月 19 日 回数 2

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	1	1		学校では支援出来る内容に限りがあることは理解していただいたうえで、助言や支援方法を一緒に考えると良いサポートにつながるのではないかと思います	学校側の意見を踏まえた支援方法を助言という形ではなく一緒に考える方法をとっても良かったと思う
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	1	1		今年度、2回ほどの訪問のみだったので、こまめに学校の様子を見ていただけると、学校での支援の仕方などを一緒に考えることが出来るのではないかと思います。	ご家族からの相談があって訪問する動きになっているので、訪問が少なかった。学校側との連携が取れていなかったため改善が必要。学校側から相談しやすい関係を構築する。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	1	1		学校でできる支援方法も具体的に教えていただければよいのではないかと思います。	学校での場面ごとの様子を観察し、具体的な支援を提案できるよう努める。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	1	1		学校での様子でも車椅子のクッションの部分が変わったことにより、おしりの痛みなどはかなり改善されたように思います。	学校生活での環境を十分に把握したうえで生活動作に対するアプローチを行う。
5	事業所からの支援に満足していますか。	2			家庭での連携をしっかりといただいていたようなので大変助かりました。どんな支援をしているか学校にも情報共有があるとよりよくなるのかなと思います。	今後も訪問先と家族との連携を深めニーズに沿った支援ができるよう尽力する。
其他のご意見					ご意見を踏まえた対応	
リハビリやクッションなどの道具などさまざまな面で工夫していただいて、本人も卒業まで元気に学校生活を過ごせました。1年間ありがとうございました。						
「どちらともいいない」の箇所がありますがしかたないところだと思っています。課題や困りごとが解決したわけではない部分もありますが、皆さんで課題を共有でき、同じ方向を向いて取り組めたことはとおても良かったと思っています。3年間ありがとうございました。						
					学校生活においては人員配置や環境などには多くの課題があると感じている。限られた人員・環境の中で訪問先や家族のニーズに応じていくために、相談しやすい関係を構築し、訪問回数を増やすことで場面毎の課題に対するアプローチの仕方が検討できる。支援機関が連携を図りながら利用者、訪問先のニーズは把握に努めていく。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人 旭川荘 旭川荘真庭地域センター さくら		公表日		R7 年 3 月 27 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環 境 制 ・ 整 運 備 営 ・	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	2		個人に合った作業課題を理学療法士・作業療法士と相談しながら教具教材を行った		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2				
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2		保育所等訪問支援の職員は4名で広く職員が参画しているとは思えないが多職種との情報共有は図っている		
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	1	今年度評価表をお願いしたため来年度業務改善につなげたい	評価することによりニーズが明確になるため業務改善が必要となった場合は業務改善をする。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2			利用者ニーズの整理を行い、その都度最適な業務改善について検討する。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	第三者による外部評価が行えていない	第三者による評価をお願いしたい。また評価結果を業務改善につなげたい。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		2	職員の資質向上については、様々な分野での研修機会は設けているが、リハビリや療育など専門的スキルについての研修機会を設けることができていない	オンライン研修を含め積極的に研修に参加することで資質向上に努める。	
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2		保護者からのニーズをひろい保育所等訪問支援計画を作成した。		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2		理学療法士と意見交換している		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2		連携する頻度が少なかったが連絡を取り合った		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2				
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2		基本的にリハビリや身体的を主に訪問としている		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2				
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2		児童のニーズを確認して行っている		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2		その日行った支援を記録にとり共有している		
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2				
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2				
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2					

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2			
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2			
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2			
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2		理学療法士から助言あり	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2			
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	1	1	保護者からの相談があったときにこどもの状況を聞き取り共通理解をしている	支援者間で情報共有を密に行い、支援方法についての理解、解釈の違いについて分析し、共通理解のもとに支援に取り組む。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	1	研修を案内する情報が少ない	家族ニーズに応じた支援プログラムや情報提供が行えるよう努める。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2			
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2			
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	2			
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	1		利用者家族の交流でき、日常生活におけるアドバイスや共感できる機会が確保できるよう努める。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2			
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	1		保育所等訪問支援事業の様子を通信などを用いて情報発信はご家族のご意向により行っていないが、個別対応にて情報発信を行っていく。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2			
36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2				
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2			
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2			
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2		実施中だったり実施後に支援内容を共有している	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	1	1	相談件数が少なかった	相談しやすい関係を構築し、ニーズごとに適切な支援、助言ができるよう努める。

非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2			
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	1	1	保育所等訪問支援自体が少なかった為ヒヤリハットが無かった。	事業所全体としてのヒヤリハット報告を共有している。事業ごとに振り返ることで感度を高めていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	1	1	身体拘束が必要なケースは見られていない。	施設内で身体拘束廃止委員会を設置し研修を行っている。また、県や自治体の開催する研修に参加し常に意識を持つ。やむを得ず身体拘束の必要が生じた場合は、適切な対応や計画を行う。